

0)

春日 直樹

資料 1

年表：

[a] 運動前史

- 1835 Wesleyanの宣教師 2 人が英国から豪・トンガを經由して渡来。
- 1854 Thakombau[Bauの大首長]の改宗。
- 1874 Grand Cession
- 1879 インド人移民労働の開始(~ 1916)。
- 1882 Navosavakanduaの"Tuka"が始まる[Ra地方]。
- 1887 NavosavakanduaのRotuma流刑。

[b] 運動の経緯

- 1875? Viti Levu島NandiでApolosi Ralawaki Nawai誕生。
- 1897 Navosavakandua死去。
- 1908? Central Methodist Training Institute[Suva郊外]で大工の技能を修得。
- 1914
 - 1.12 ' Fiji Company ' および ' Apolosi ' の名前が行政文書に登場。
 - 4.29 ApolosiはDraumbuta[Rewa地方]での会社旗揚げの大会を命令。
- 1915
 - 1.10? Draumbutaでの大会。3-4000人が動員され、約1カ月つづく。社旗の旗揚げ。
 - 3.27 首都Suvaで株主総会。
 - 5.19 Apolosi一行、Ba川河口にて逮捕される。
- 1916
 - 10.2 出所。
 - 12. 7 Lutu[Tholo East地方]で"Bose Ko Viti"[フィジー大会]。20日までつづく。
- 1917
 - 11.19 Votua[Ba]にて再逮捕。
 - 12. 4 Rotumaへの7年間の流刑。
- 1924
 - 12. 2 Rotumaより釈放され、Levukaへ帰還。
- 1930
 - 1.16 Tui Vudaの村の近く[Lautoka]で、3度目の逮捕。

Rotumaへ再度10年間の流刑。

1940

3. Rotumaから釈放。航海中、北部を中心にした農業銀行設立を提唱。
5.30 Rotumaへ再々度、10年間の流刑。

1941 日本軍のApolosi利用を恐れた政府によって、身柄をひそかにNZに移される。

1944 Rotumaへ4度目の流刑。

1945 戦争終結後、Yacata島[Cakaudrove地方]に移される。

Yanuca[Cakaudrove地方]島に移動。

1946

4. Yacata島にて死亡。

資料2

アポロシの説教の覚え書き：

私がまず最初に言うのは、言われたことを忠実に実行しなさい、ということです。あなたがたの間に真実(na ndina)をいきわたらせなさい。そうすればあなたがたは栄えるでしょう〔中略〕私は言うべきことをこっそりと明かしたり隠したりすることはしません。私は正しいこと、神が我々に役立つよう与えられたことを口にするのです〔中略〕私は西洋人たちが同様な集会を開いているのを知っています。なぜ今この集会を開くのか、それは彼らのやりかたに従い、金をかせぎ財を手に入れるためです。彼らは見ての通り、増加し繁栄しています(tubu thake)。同じ道を歩もうではありませんか。 - Apolosi Nawai to E.B.Sweet-Escott, 27 November 1917-

資料3

会社設立にまつわる伝承：

アポロシは私の祖父や他の者を引き連れて、スヴァの弁護士モーリス・スコットの事務所に会社の登録に行った。モーリス・スコットが聞いた。「よろしい。われわれは二つ会社をもっている。BP(Burns Phillip)とMH(Maurice Hedstrom)だ。君は自分の会社を何と名付けるかね」。アポロシは答えた。「ヴィチ・カンバニです」。するとスコットは書類とペンを放り出したそうだ。「よろしいラトゥ・アポロシ。下に降りて行って石蒸しの火を用意なさい。戻ってきて私をその中に放り込めばよい。私はすぐ死のう。われわれ西洋人はフィジー人に隠してきた。絶対に会社をつくらせないこと。ヴィチ・カンバニという名の会社を。これこそ秘密だったのだ(oqo nga na vunivuni)」。彼はそう言ったんだよ。

-Sakiusa Nawai(1940-),セルア地方Mangumangua村-

資料4

Draumbuta大会にまつわる口承：

「ドランプタ大会では、フィジーのあらゆる首長たちが集まった。その日、幾千というフィジー人が署名した。これが終わると彼らは式壇をつくり、100本のタンブアをつるした。そこでロコトウイサワウ(Roko Tuisawau)、つまりトウイ・ドレケティ(Tui Dreketi)〔レワの最高首長の称号〕は、演壇に立った。フィジーの全首長を代表して、彼は一本の大きなタンブアを胸に抱いていた。フィジーすべてをアポロシが支配できるように、土と人々を捧げようとしていた」

Gaunavou, S. and D.L.Toma's 196? Ai Tukutuku Bibi e baleti Ratu Avolosi R.Nawai. Nadi:S.S.Press. pp.8-9

資料5

フィジー人という意識：

「彼らは『フィジー流/フィジー式』(vaka Viti)であればすべて従う・・・彼らは自分たちの慣習こそが世界一と信じている」

Rowe, G.S. 1859 The Life of John Hunt.

London: Hayman, Christy & Lilly.p.126

'No ancient Roman could have pronounced the words "Civis Romanus sum" with greater pride or dignity than a modern Fijian calls himself a "Kai Viti", a Fijian. We can scarcely conceive these general sentiments to have taken hold of the popular mind with such force, if the people had always been divided into petty states as at present.'

Seemann, B. 1862 Viti: An Account of a Government Mission to the Vitian or Fijian Islands 1860-61. London: Dawson of Pall Mall.p.75-6

資料6

Lutu大会の決議：

- ・会社の代表取締役をアポロシとする。
- ・会社は今後、旅客運搬（蒸気）船の購入、大型船舶の建造、医療技術学校の設立を手がけ、フィジー番の大店舗をスヴァとレヴカで開店する。
- ・ココナツ石鹸工場、船舶建造場、各種の作業場をスヴァ近郊に建設する。
- ・スヴァの店舗に世界中の産品を並べるために、ニュージーランドから貨

物輸送船を購入する。

- ・「役員」(manager)、「監督官」(overseer)、「旅団長」(Tour Chief)、「オフィサー」、「バイヤー」などの任命。
- ・年収は役員に100ポンド、監督官50ポンドとし、オフィサーは月収2ポンドを受け取る。代表取締役アポロシは、年収1200ポンドを保証される。

Lutu大会でのアポロシの言葉：

「私だけがフィジーの物事を支配できる。私が悪くなれといえ
ばフィジーは悪くなるのだ」-Lasarus Vuniwaiwai to Ag.Inspector General,27 December 1916-

資料7

ヴィチ・カンバニ運動のキーワード：

- ・「生気を吹き込む」(vakambula)
アポロシは息をひきとった少年を生き返らせ、二つに切断した猫をつなぎ合わせて走らせた。それだけでなく、たとえば子供に恵まれない夫婦に子宝をもたらしたり、水枯れした土地に泉を湧かせた。さらに、パンダナスが茂るだけだった土地に国際空港を開かせ、孤立した集落の付近にハイウェイが開通して交通の要所とするなど、いわゆる発展の色彩を帯びた変化を引き起こした。
- ・「育つ/殖える」(tumbu)
生気を吹き込むことは、土地や人間や富が「育つ/殖える」(tubu)と表現される。
- ・「ひっくり返る」(vukica)
生気の無い状態から在る状態への移行に充てられた言葉。

資料8

差異と反復の一例：

- 祖先神に重ねられたエホバやイエス (a)
- エホバ/イエスに重ねられたナ・ジリ (b)
- ナ・ジリに重ねられたナヴォサ (c)
- ナヴォサに重ねられたアポロシ (d)
- ナ・ジリに重ねられたアポロシ (e)

[veiwekanivataとは、後継者であること、運命的絆をもつこと、さらには同一であることを示す。ここでは、アポロシのマナがveiwekanivataの反復の上に成立した点を指摘する]